

湯の丸高原（湯ノ丸山・烏帽子岳）

烏帽子岳（えぼしだけ）（2,066 m）と湯ノ丸山（ゆのまるやま）（2,101 m）は、湯の丸高原（ゆのまるこうげん）の西端に位置し、浅間・烏帽子（あさま・えぼし）火山群の中では最も古い山である。頂上が非常に尖っている烏帽子岳は、平安時代（794-1185）の廷臣が着用した背の高い尖った帽子にちなんで名付けられた。烏帽子岳よりも丸みを帯びた湯ノ丸山は、斜面を彩る花畑で有名である。

湯ノ丸山山麓の湯の丸スキー場には、9つのゲレンデがあり、冬場には、東側のゲレンデから雪を被った烏帽子岳と湯ノ丸山の絶景を望める。また、ガイド付きのスノーシューツアーも行われており、冬の風景をもっと近くで楽しめるほか、天然記念物のニホンカモシカに出会えることもある。

この2つの山はアクセスしやすく、日帰り登山に最適である。湯の丸キャンプ場からなら、約5時間で2つの頂上を巡って戻ることができる。